

■取り組み趣旨（再掲）

地域観光プランニングカレッジ —山口県・長門湯本温泉×深川萩焼—

主 旨

日本建築学会に設置された地域観光プランニング小委員会では、研究者と実務者が議論し、公共性や公益性を重視してきた都市計画・まちづくりの方法や進め方と、事業性を重視してきた観光事業の方法や進め方を融合した「新・観光まちづくり」のあり方を研究してきました。この知見を、観光に興味のある学生や、地域づくりの専門家、地域で観光に関わるビジネスに関心のある事業市民のみなさまとともに学ぶ場として、「地域観光プランニングカレッジ」を開催します。

その第1回目のフィールドは山口県長門市の長門湯本温泉です。本地区では現在、温泉地の再生にむけて、公民連携で温泉地の環境やあり方の大改造を進める事業が真っ最中です。まちぐるみの景観形成、外湯事業の創出、川床の設置・運営、リノベーション、周辺の観光資源との連携、そして星野リゾートの誘致など。また、これらの実現に向けて社会実験を実施しつつ進めています。この事業のキーパーソンと一緒に、新しい観光まちづくりのあり方を考えてみませんか。

本カレッジでは、長門湯本温泉に隣接する三ノ瀬地区の深川萩焼とその窯元集落を重要な地域資源として設定し、長門湯本温泉と深川萩焼のWin-Win関係を構築するプロジェクト、社会実験を提案します。

■地域観光プランニングのプロセス と カレッジで学習・成果物との関係

